

「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

鳥 取 大 学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構

大学評価・学位授与機構が行う大学評価

大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施(試行)期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会に取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

対象機関の現況

1) 大学設置の趣旨

鳥取大学は、昭和 24 年に鳥取師範学校、鳥取農林専門学校、米子医科大学などの旧制諸学校を母体にした新制大学として発足して以来、昭和 40 年には工学部が増設されて、いまや鳥取・米子両キャンパスに教育地域科学部、医学部、工学部、農学部、農学部の 4 学部を擁する鳥取県唯一の 4 年制の総合大学として着実な発展の歴史を重ねてきた。

本学が、半世紀に及ぶこれまでの歩みをとおして一貫して目指してきたものは、旧制諸学校以来の伝統を継承して、地域社会に根ざし、地域社会の興望に応えて、地域の文化や産業の振興に積極的に貢献することであった。

2) 大学の理念・目標

理念 『知と実践の融合』

鳥取大学の基礎をなす 4 つの学問分野「教育学」「医学」「工学」「農学」は、いずれも実学的性格に富むところに共通点がある。鳥取大学は明治 7 年小学校教員伝習所を源流とし、以来、あらゆる分野に人材を輩出し、学術はもとより広く社会に貢献してきた。そこでは人類が蓄積してきた知識を駆使して、人々や国内外の地域社会が直面する個別具体的な問題を解決すると同時に、問題の解決を探求する中から人類に有用な普遍的知識を見出し、それをまた人材の育成や学術の発展に還元するという営みを間断なく行ってきた。これは、理論と実践が相互に触発し合うことにより多くの問題解決と知的創造を行ってきたことを意味し、ここに鳥取大学の特色がある。鳥取大学はその精神を今後とも基本の指導理念として堅持する。

目標

本学の教育研究の目標は、社会の中核となりうる教養豊かな人材の養成、地球的・人類的・社会的課題解決への先端的研究、地域社会の産業と文化等への寄与の 3 本柱が掲げられており、特に については、地域に密着した教育研究を「知と実践を融合」しつつ推進するとともに、鳥取大学が有する国内外との研究ネットワークを、地域と結ぶ窓口として機能させることにより、産業・文化の振興と発展および福祉の増進に寄与すると説明しており、その知的資源によって社会の発展に積極的に寄与することを目指している大学である。

3) 機関名及び所在地 鳥取大学

鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101 番地

事務局，教育地域科学部，工学部，農学部，
教育学研究科，工学研究科，農学研究科，
連合農学研究科，地域共同研究センター，

総合情報処理センター，附属図書館

鳥取県鳥取市浜坂 1390 番地

乾燥地研究センター

鳥取県米子市西町 86 番地

医学部，医学系研究科，遺伝子実験施設

鳥取県米子市西町 36 番地の 1

医学部附属病院

4) 設立年及び学部・研究科・附属病院・共同利用施設

学部：教育地域科学部，医学部，農学部（昭和 24 年），
工学部（昭和 40 年）

研究科：医学系研究科（昭和 33 年），農学研究科（昭和 42 年），工学研究科（昭和 49 年），連合農学研究科（平成元年），教育学研究科（平成 6 年）

附属病院：医学部附属病院（昭和 25 年）

共同利用施設：乾燥地研究センター（平成 2 年），地域共同研究センター（平成 5 年），遺伝子実験施設（平成 7 年），総合情報処理センター（平成 11 年）

5) 学生数及び教員数（平成 13 年 5 月 1 日現在）

学生総数	6,090 名
学部学生	5,063 名
大学院学生	1,027 名
教員総数	690 名

教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

1) 本学における社会貢献活動全体の位置付け： 本学においては、大学の在り方の抜本的見直しを求めた「大学審議会答申」(平成 10 年 10 月)を受けて、時代の要請に応えるべく様々な大学改革を推し進めているところであるが、本学がその大学改革の重要な基本理念の一つとして位置付けているのはまさに「開かれた大学として産官学連携の一層の強化を図り、生涯学習やブラッシュアップ教育の実施などをとおして、地域社会の文化や産業の振興に積極的に寄与すること」(鳥取大学「大学改革の基本構想～新世紀に向けて～」)である。鳥取県唯一の4年制総合大学としての本学に寄せられる地域住民の期待は大きく、またその期待の及ぶ範囲も広い。地方国立大学としての本学には、一方では地域社会の学術研究の中心として、産官学連携研究等を通して地域の産業の振興に積極的に寄与することが期待されているとともに、また一方では地域の高等教育のメッカとして、地域の産業や文化を支える優れた人材の育成も期待されている。

2) 教育サービスの考え方： 開かれた大学として必要とされる社会貢献活動には、正規の教育研究はもとより、研究プロセス、研究成果を通して行われる産官学連携研究、知的情報の受発信の鳥取県における中核としての役割、教育を通して行われる生涯学習やブラッシュアップ教育、児童・生徒への啓発などの取組がある。現在は、ともに重要な課題とされているが、その取組は、の順でいまだ濃淡がある。地域社会における大学への期待はただ単に正規学生の教育を通して、有為な専門的指導者や技術者を社会に輩出することにとどまらない。鳥取県唯一の総合大学としての本学には地域社会の各界各層から、生活、教育、文化、社会、国際交流、産業、行政等々の様々な分野にわたって、専門的立場からの助言・指導の期待が寄せられている。

特に、鳥取県は子供と老人の比率が高いという構成にあること、鳥取といえば、砂丘、二十世紀梨といわれるなどの地域特性があり、それに促した教育サービス面の努力も長い間続けられている。

また、近時の成熟化社会を背景にして、大学教育における再学習を通じてキャリア・アップを求める人々や心の豊かさや生きがいのために学習機会を求める人々が増加するなど、ブラッシュアップ教育や生涯学習の需要の高まりの中で、それら教育の拠点としての期待も大きく

なっている。

3) 具体的取組： 本学では、大学の教育研究に対する地域住民のこのような多様なニーズや関心に適切に応えるために、地域住民に対して次のような教育活動や学習機会の提供を行なっている。

- (1) 生涯学習向けの教養的教育を求める一般市民を対象とした教育……「公開講座」、「一般講義・特別講義への受け入れ」
- (2) 新しい知識や専門知識・技能の修得を求める一般市民、関係職業人を対象とした教育……「公開講座」、「研修」
- (3) 資格の取得や専門的知識・知識の修得を目的とする社会人や特定の授業科目の履修を希望する社会人を対象とした教育……「科目等履修生の受け入れ」、「科学教育研究室研究生・受託実習生・研修生」制度、「講習・研修・セミナー」
- (4) 地域の青少年を対象とした教育……「施設の開放」、「子ども教室」
- (5) 高校教育と大学教育の接続の円滑化……「高校への出前講義」、「体験入学」
- (6) 地域社会の様々な領域からの要請……「専門的指導・助言者の派遣」
- (7) 一般市民を対象にした施設開放……「附属図書館・教育研究施設の開放」

2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

1) 目的

本学は開かれた大学として地域社会のニーズに応えて、本学が集積している知的資源と本学が保有する教育研究施設をできる限り地域社会に開放し、もって地域社会の文化の向上と社会の発展に寄与するために、一般市民に対して次のような目的をもった教育活動や学習機会の提供を行う。

(ア) 地域住民の生涯学習に寄与する： 人生を心豊かに生きるために、あるいは生きがいのある人生を模索して、大学の教養的教育に生涯学習の場を求める一般市民に対して、そのニーズに応える適切な学習機会の提供を行う。

(イ) 地域社会の職業人・研究者の資質向上と産業の振

興に寄与する： 技術革新の進展や産業構造の変化に対応するために、最新の知識・技能の修得を求める職業人・研究者に対して、それぞれのニーズに適切に応える教育機会の提供を行う。

(ウ) 地域社会の職業人のブラッシュアップ教育と資格取得に寄与する： 大学教育における再学習をとおしてキャリア・アップを求める職業人や各種の国家資格や免許の取得を求める社会人に対して、それぞれのニーズに応える適切な教育機会の提供を行う。

(エ) 地域社会の子どもたちの健全育成に寄与する： 子どもたちの生活体験や自然体験の不足、あるいは「理科離れ」が指摘される中、今日の子どもたちを取り巻くこれらの状況を改善するために、大学の有する教育機能や施設の開放が求められているが、これらの要請に応じて、地域の子どもたちに適切な教育機会の提供と、施設の開放を行う。

(オ) 高校生の学習の動機付けに寄与する： 高校教育の多様化と大学入学者の学力の多様化・入学動機の希薄化等が絡んで、高校と大学の教育の接続に混乱が起きているが、この状況を緩和・改善するための教育機会の提供を行う。

(カ) 地域社会の発展と地域住民の啓発に寄与する： 現代社会を取り巻く複雑・不透明な諸問題に関して、鳥取県唯一の総合大学としての本学には地域社会の様々な領域から専門的指導・助言を求められるが、これらの地域社会の要請に適切に応える人材を派遣する。

(キ) 地域住民の自主学習に寄与する： 近年の高度情報化社会、生涯学習社会を背景にして、一般市民の知的関心がますます高まっているという状況の中で、公共図書館にはない高度な情報や専門的文献資料を集積している大学図書館の開放を求める声や、大学の保有する高度な研究・実験・実習施設や教育施設の開放を求める声が強まっているが、このような地域住民の要請に応じて附属図書館をはじめとして、各種教育研究施設を地域住民に開放する。

2) 目 標

「目的」を達成するために以下の目標を設定する。

- ア - 1 本学は時代に即した教養的講座を提供する。
- ア - 2 教育地域科学部は、人間の感性を養う機会を提供する。
- ア - 3 農学部は、砂丘地利用の問題を考える機会を提供する。
- イ - 1 農学部は、農業従事者の能力向上をはかる教育

を効果的に提供する。

- イ - 2 本学は、高度職業人の能力向上をはかる機会を提供する。
- イ - 3 本学は、各方面の新知識を吸収してもらう機会を提供する。

- ウ - 1 本学は、職業人の資質向上に資する教育を提供する。(教育地域科学部、農学部)
- ウ - 2 本学は、資格取得に係わる講習会及び研修を実施し、職業人の能力を向上させる。(教育地域科学部、医学部附属病院)

- エ - 1 本学は、青少年の学習の動機付けになるような機会を提供する。(教育地域科学部、工学部)
- エ - 2 本学は、小学生が自然に親しみ、自然を科学する心を養う機会を提供する。(農学部、乾燥地研究センター)
- エ - 3 教育地域科学部は、子どもがマルチメディアに関心を向ける教育機会を提供する。
- エ - 4 本学は、子どもにもの作りに関心を向ける教育機会を提供する。(教育地域科学部、農学部)

- オ - 1 本学は、高校生の学習意欲を高め、大学選択の動機付けとなることを願い、出前講義を提供する。
- オ - 2 本学は、高校生を対象に実験の機会を提供し、科学への関心を高めてもらう。

- カ - 1 本学は、公共団体等他機関からの研修、講演等の講師派遣に積極的に応ずる。
- カ - 2 教育地域科学部は、フレンドシップ事業での助言・指導に積極的に関わりを持つ。

- キ - 1 本学は、大学施設の開放を実施する。
- キ - 2 附属図書館は、図書館運営に関わる講演会を開催する。

3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

本学が取組んでいる「教育サービス」に関わる全体像を，平成12年度を例に以下の表に示した。

各目的記号と目標番号につき，各年度ごとに単発で開

催される活動と，ある年度に亘って継続的に開催される活動に分類して標記した。

(例：平成12年度)

注：

…目標番号

公…公開講座

目的	単発型	継続型
ア 一般教養	食料生産と環境 (公) 身体によいもの悪いもの (公) 音楽鑑賞会においてオーケストラ指揮 教養特別講義「笑いと人間」 公開授業「地域研究論序説」他5科目	木炭やバステルによる 素描実習講座 (公) 砂丘研究の明日を目指して
ア 一般教養及び新知識 イ 技能の修得		サイエンスアカデミー ア- , イ- あなたも樹木医になれるか ア- , イ- (公)
イ 新知識・ 技能	とっとりアグリテクノ研究会シンポジウム 経営指導員技術研修 特別講演「地域における大学の役割」 グライコサイエンス公開セミナー いきいき細胞をつくるコラーゲンの秘密 特許出願説明・相談セミナー 大学客員教授セミナー産業科学特別講義 鳥取大学・島根大学合同シンポジウム	梨栽培生理講座(公) 高度加工セミナー 高度技術研修
ウ ブラッシュ アップ		コンピュータによる農業情報処理講座 (公) ホームページ作成とインターネット・電子メールの利用 (公) Windows NTSever ネットワークの管理 (公) 科目等履修生 免許法認定公開講座(香川大学と共催) 学校図書館司書教諭講習 受託実習生 薬剤師実務受託研修生
エ 子供教育	森林教室「森に学ぶ」プロジェクト みんなで学ぼう「郷土の ナシ栽培」	青少年のための科学の祭典 おもしろわくわく化学の世界 in 鳥取 子供マルチメディア教室 (公) 子どものものづくり教室 のぞいてみよう，電気の不思議 きみもなろう「砂漠博士」
オ 高校生用		出前講義 大学での実験・実習体験 遺伝子に関する講習会
カ 専門的指導・助言	各種研修，講習への講師派遣	フレンドシップ事業
キ 地域住民 サービス		体育施設の開放 図書館の開放 大学祭における研究室の開放 地域共同研究センターの開放 乾燥地研究センターアリドドームの開放

評価結果

1. 目的及び目標を達成するための取組

鳥取大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、公開講座、一般市民の一般講義・特別講義への受入れ、一般市民・職業人を対象とした研修、科目等履修生の受入れ、科学教育研究生・受託実習生・研修生の受入れ、講習・研修・セミナー、子ども教室、高校への出前講義、体験入学、附属図書館・教育研究施設の開放などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

公開講座は、大学の教養的教育に生涯学習の場を求め一般市民を対象とした講座、最新の知識・技能の取得を求める職業人・研究者を対象とした講座、キャリアアップや各種の資格・免許の取得を求める職業人・社会人を対象とした講座などを開講している。

その中でも、鳥取県特産の二十世紀梨を課題に開講している「梨栽培生理講座」は、消費者の好みの変化、栽培担い手の変化等に対応し、昭和48年以来約30年にわたり、梨の代謝生理に即した最新の合理的な梨栽培技術を伝えることを目標に開催されており、地域のニーズに応えた特色ある取組である。

サイエンスアカデミーは、高校生、大学生、市民を対象として、平成7年から偶数週の土曜日の午前を利用し、毎年度20回前後開講している講座であり、人文科学、自然科学を問わず全学の幅広い分野の教官の参加を得て、分かりやすさをモットーに行われている優れた取組である。

地域の子どもたちの自然科学への興味を高めるための教育として、各種イベントにおいてブースを設定しての物理・化学の実験体験、学内開放で電子顕微鏡を覗く体験、演習林で泊まり込みでの森の体験、乾燥地研究センターアリドームでの砂漠の体験など多数行われている。

その中でも、大学等地域開放特別事業として行われている「みんなで学ぼう『郷土のナシ栽培』」や、「きみもなろう『砂漠博士』」は、自然科学へのより強い関心を与えるため、鳥取砂丘や二十世紀梨の特産地という鳥取

県の特性を取上げている点において優れている。

森を主題にした一般向けの公開講座である「あなたも樹木医になりませんか」は、マスコミなどで「樹木医」が取り上げられてきている現在において、社会の関心に対応した優れた取組である。

体育施設の開放は、特定の利用者に対して行われているが、更なる利用促進のために、学外へ広報を行うなどの取組に改善の余地もある。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

2. 目的及び目標の達成状況

ここでは、「1. 目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

公開講座については、平成 11 年度、12 年度に開催された「あなたも樹木医になりませんか」など、募集人数を上回る受講者を確実に得ている講座があるものの、募集人数に満たない講座もある点で改善の余地もある。

サイエンスアカデミーについては、過去 5 年間の受講者数が、平成 8 年度の 288 人から平成 12 年度の 388 人へと増加傾向にあり、地域に定着してきている点で優れている。

平成 11 年度から小・中学生を対象として実施している大学等地域開放特別事業は、教育地域科学部で実施している「ものづくり教室」、工学部で実施している「のぞいてみよう、電気の不思議」、乾燥地研究センターで実施している「きみもなろう『砂漠博士』」ともに、ほぼ募集人数を満たしており、成果を上げている。

出前講義については、県教育委員会のまとめた報告書によると、対象の高校からは「成果があった」とされている点で満足度は高いが、課題として「内容が難しい」との意見もある点においては、改善の余地もある。

学校図書館司書教諭講習は、平成 11 年度までは募集人数 150 人に対して受講者が下回っていたが、平成 12 年度は募集人数 140 人に対して 186 人の受講者を得ており、成果を上げている。

砂丘学会共催市民講座「砂丘研究の明日を目指して」は、平成 9 年度から実施されているが、毎年度 100 人を超える参加者を得ており、成果を上げている。

高度技術研修は、募集人数 10 人で毎年度実施され、ほぼ定員を満たす受講者があり、成果を上げている。

達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

各学部にて自己評価委員会を設置し、全学としても大学評価委員会を設置することにより、各活動の状況や問題点を把握している点は優れているが、各活動を有機的に連携して検討・運営が行われていないなど、改善につながる体制が十分でない点においては、改善の余地もある。

高校への出前講義については、鳥取県教育委員会において対象の高校側の成果や課題がまとめられ、実施報告として大学に報告されている。また、公開講座などその他の活動については、アンケート調査を行い受講者等の意見を把握している点は優れているが、幅広い社会のニーズを把握する方法は確立されていない点においては、改善の余地もある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。

評価結果の概要

1. 目的及び目標を達成するための取組

特に優れた点及び改善点等

鳥取県特産の二十世紀梨を課題に開講している公開講座「梨栽培生理講座」は、地域のニーズに応えた特色ある取組である。

サイエンスアカデミーは、人文・自然科学を問わず全学の幅広い分野の教員により、分かりやすさをモットーに行われている優れた取組である。

大学等地域開放特別事業「みんなで学ぼう『郷土のナシ栽培』」や、「きみもなろう『砂漠博士』」は、地域の子どもたちに自然科学へより強い関心を与えるため、鳥取県の特性を取上げている点において優れている。

一般向けの公開講座である「あなたも樹木医になりませんか」は、「樹木医」が取り上げられてきている現在において、社会の関心に対応した優れた取組である。

体育施設の開放は、学外へ広報を行うなどの取組に改善の余地もある。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

2. 目的及び目標の達成状況

特に優れた点及び改善点等

公開講座については、募集人数を上回る講座があるものの、募集人数に満たない講座もある点で改善の余地もある。

サイエンスアカデミーについては、受講者が増加傾向にあり、地域に定着してきている点で優れている。

小・中学生を対象としている大学等地域開放特別事業は、ほぼ募集人数を満たしており、成果を上げている。

出前講義の開講は、対象高校の満足度は高いが、「内容が難しい」との意見がある点においては、改善の余地もある。

学校図書館司書教諭講習は、平成 12 年度に募集人数

を上回る受講者を得ており、成果を上げている。

砂丘学会共催市民講座「砂丘研究の明日を目指して」は、毎年一定の参加者を得ており、成果を上げている。

高度技術研修は、ほぼ定員を満たす受講者があり、成果を上げている。

達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

特に優れた点及び改善点等

各学部等の委員会において、活動の状況や問題点を把握している点は優れているが、各活動を有機的に連携して検討・運営が行われていないなど、改善につなげる体制が十分でない点においては、改善の余地もある。

アンケート調査などにより受講者等の意見を把握している点は優れているが、幅広い社会のニーズを把握する方法は確立されていない点においては、改善の余地もある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。